

がんはなぜ再発するか？

—再発解明への挑戦の現状と展望—



鈴鹿医療科学大学教授・薬学研究科長

川西 正祐 先生

がん治療の最初の段階では、しばしばがんはすっかり消失したように見えます。それはがん組織の大部分を占める通常のがん細胞が死滅するからです。しかし、わずかですががん幹細胞が残存しており、これは一般的ながん治療ではなかなか死滅しません。やがて抗がん剤や放射線の攻撃がなくなると、がん組織は増殖し再発します。

最近のがん幹細胞の研究によれば、がん幹細胞は化学物質を細胞外へ排出するためのポンプを作る遺伝子を持っているため、抗がん剤の攻撃に耐えて生き残ること、また、がん幹細胞は休眠状態となって、抗がん剤や放射線照射にも抵抗性を示すこと、更には抗がん剤や放射線照射は活性酸素を利用してがん細胞を死滅させていますが、がん幹細胞は活性酸素に抵抗する遺伝子を持っていること、などが明らかにされています。

強靱ながん幹細胞の弱点を解明し死滅させる挑戦の、現状と展望をお話しします。

日時：12月9日（金）

午後6時～8時 講演会
午後6時半までは川西先生
を囲んで夕食（*）

場所：けやきの会事務所 →

豊中市千里園2-1-37
（電話 06-6857-2562）

参加費：無料

* 夕食は各人で買ってご持参下さい。
飲み物は用意しています。また、
時間ぎりぎりになられる方のために
軽食を用意しています。

